

令和7年度 長野県農業大学校 評価表

評価 A:目標を上回った B:ほぼ目標どおりできた C:目標を下回った

1 学校教育目標

内 容	R7評価
理論と実技を同時に学ぶ実践型の教育により農業技術の高度化、経営の専門化に対応する知識、技術を習得させるとともに、自ら目標やテーマを定めて行う模擬経営・プロジェクト学習並びに寮生活等により他者との協調、自己の確立等の社会性を涵養し、次代の農業・農村を担う優れた人材の養成を目指す。	

2 重点目標

内 容	R7評価
学生の学習意欲の向上に向けて授業内容の充実・改善及び職員の教育力の向上を図るとともに、関係機関等と連携して学生の希望に応じたきめ細かな進路指導により就農率向上に努める。	

3 当該年度の評価項目等

(1)共通項目(総合農学科、実科・研究科)

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R7評価
			成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
学習指導	授業実習内容の充実を図る	授業改善に向けた取り組み ○ 引き続き学科目の変更や資格取得にかかる授業の分散により授業時間に余裕を持てたか。また、新たな学科目の導入(有機農業や地域づくりなど)について検討できたか。 ○ 学生が興味や関心を持ちわかりやすい授業を行うための、職員の教育力向上研修を計画的に設けることができたか。 ○ 国、県が開催する研修会に参加することができたか。その研修内容を共有することができたか。 ○ わかりやすい授業を行うため、ねらい、展開、見とどけの観点で授業を行うとともに実物やパワーポイント等を用いたか。 ○ 中間テスト等による学生の理解度の把握や学生への授業アンケートの実施(2回)と、結果を踏まえた授業の改善ができたか。 ○ 実習について、開始時に作業の目的や内容を十分に説明し理解させたか。 ○ 学生の授業、進路、寮生活などに関する要望を面談などを密にして随時把握し、学習内容や進路指導の参考としたか。			
		新しい知識・技術への対応 ○ スマート農業に関する講義の充実と関連企業との連携強化できたか。 ○ 「施設園芸ほ場モニタリングシステム」やタブレット端末等を活用した実践的なプロジェクト研究の支援ができたか。また、スマート農業に対応した機械・施設が導入できたか。 ○ みどりの食料戦略に関する講義、学生チャレンジへの参加が実施できたか。 ○ 青年農業者、先進的農業経営体への視察研修や講義の拡充が図れたか。 ○ GAPや農場HACCPなど新しい国際規格の知識習得や、SDGsやエコマネジメントなどの農場経営における実践について講義、演習を実施したか。 ○ 「長野県農業を担う人材の教育支援協定」を活用した講義を行うとともに、県内農機メーカーとの連携を検討できたか。 ○ 関係試験場の開発した新技術や新品種について、現物を踏まえた適期での講義・実習が実施できたか。 ○ 農業機械の整備に関する授業が実施できたか。			
		資格試験の受験者数と合格率の向上に向けた取り組み ○ 資格・検定試験の必要性を理解させて受験者数のアップと取得意欲の向上を図る。 ○ 合格率向上に向け、学生のレベルに応じた個別指導や繰り返しの事前学習、小テストを実施できたか。			

評価項目	評価の観点	達成状況		R7評価
		成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
効率的・計画的な農場利用で学習効果を高める	○ 実践経営者コース2年生の模擬経営実施のための農場や施設等の確保・調整ができたか。 ○ 計画的な作付により、年間通したほ場の有効活用が図られたか。 ○ 1年生は、必要な実習ができたか。また、現地体験実習に必要な基礎的知識、技術を習得させたか。 ○ 定期的な農場運営会議の打ち合わせに基づいて各専攻とも計画的な圃場整備と適期には場管理ができたか。			
進路指導 個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	○ 学生の進路の意向を随時聞き取り、その情報を職員間で共有できたか。 ○ 1年生は11月末を目途に将来の進路を決定し、年度末から活動するよう個別指導できたか。 ○ 2年生は12月末を目途に全員の就農及び就職先等が決定するよう指導できたか。 ○ 雇用就農に向け法人説明会の開催方法の見直しと授業との連携を強化し効果的な説明会の実施により、さらなる学生の就農意欲の向上を図る指導ができたか。 ○ 進路・就農指導等に関し、早い時期から農業農村支援センターや市町村等の関係機関とも情報を共有し連携して対応できたか。 ○ 関係機関と連携し、学生の円滑な就農支援や卒業後のフォローアップに取り組めたか。			
生活指導 社会的規範意識を高め、基本的生活習慣の育成に努める	○ 学年担当者会議等を定期的に行って教授間の情報共有を行い、個別の状況に応じた支援ができたか。 ○ ホームルーム、交通安全・防犯・健康講座などを通じて、生命尊重や社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 ○ 寮生活や自治会活動を通じて社会人としての意識を醸成する指導ができたか。 ○ 各学科ごとの状況に対応した指導ができたか。			
生活指導 自他の生命・人権を尊重する精神を養い、男女が共に支えあう豊かな心を育成する	○ 寮生活での活動を通じ、先輩と後輩の関係を学び、他人を尊敬し思いやる心を育てることができたか。 ○ 1・2年生共通の実習や寮自治会活動での交流事業等により、各コース間および学年間の交流が図られたか。 ○ 清掃等全員参加で実施できたか。			

評価項目	評価の観点	達成状況		R7評価
		成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
学校運営	農業機械・施設の充実 ○ 農場実習等の農作業に必要な機械と施設の修繕や更新計画表による更新が図れたか。 ○ 圃場管理に支障が出ないよう、十分な準備とメンテナンス、マニュアルや画像による技能の伝承を進められたか。 ○ 導入したスマート農業機器と設備の効率的利用ができたか。			
	機械の適正な管理 ○ 農業機械、施設及び機器の故障や修理情報が職員間で共有されるとともに、使用後の保守点検のルール化や使用簿への記入徹底などにより、適切な管理運営が行われているか。 ○ 農業機械の適切な使用等について職員研修会が早期に実施できたか。 ○ 適切な操作方法を習得させようと学生に機械利用させたか。また、複数指導体制を検討できたか。 ○ 修繕可能な機械類を見極め備品の有効活用がされたか。 ○ 使用できない機械の廃棄が行われたか。			
	学校用地や施設の適切な維持管理 ○ 実習棟、機械庫等は、定期整頓日の設定などにより整理整頓がなされているか。 ○ 定期清掃日の設定などにより、農場以外の学校用地や校舎等施設の維持管理が適切に行われたか。			
	学生募集のPRを更に充実する ○ 学校案内、募集チラシを作成して配布し、県内外で農業大学校への関心を高めることができたか。 ○ サンデー見学会、オープンキャンパスの充実と体験学習を見直し、農業大学校への関心を高めることができたか。 ○ 高校訪問や進路指導担当教諭会議等を通じて農大のPRや情報収集ができたか。また農業高校以外の進路担当教諭にも十分周知できたか。 ○ 農業高校との一層の連携を推進するために、「農大・農高の連携会議」を開催し、農高生の体験入学等を実施できたか。 ○ 改革を進めている農大の教育内容や就農支援の様子を各専攻のブログ等で頻繁に発信できたか。 ○ 入試案内、行事等を計画的に紹介するとともに、授業や実習等の動画を載せるなど、積極的に大学校のPRを行うことができたか。 ○ 県外での学校PRを積極的行えたか。			
	ホームページの充実を図る ○ 広報委員会を定期的に開催するとともに、HPのあり方や新たな広報手段等が検討されたか。 ○ 学生の自治会活動や実科・研究科の情報のHPへの掲載を支援できたか。 ○ 改革を進めている農大の教育内容や就農支援の様子を各専攻のブログ等で頻繁に発信できたか。(再掲) ○ 入試案内、行事等を計画的に紹介するとともに、授業や実習等の動画を載せるなど、積極的に大学校のPRを行うことができたか。(再掲)			
	予算執行の適正化を図る ○ 計画的な予算執行と無駄を無くすため、農場は専攻別に、管理運営は費目別に執行状況を管理し調整できたか。			

(2)実践経営者コース

評価項目	評価の観点	達成状況		R7評価
		成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
学習指導	授業実習内容の充実を図る	○ 1年生における各論実習の充実と目的意識を持った農業経営体験実習をさせることができたか。 ○ 模擬経営の実践の中で経営分析させることで、経営力の向上ができたか。 ○ 希望する就農形態に合わせて模擬経営と長期農業経営実習を適正に選択するとともに、就農後予想される課題の把握と対応策が検討できたか。		
進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	○ 就農支援プログラムに基づき、早めに関係機関や研修先農家と連絡を取りあい就農形態に応じたきめ細かな個別就農支援ができたか。 ○ 職員間の連携により、授業計画、授業管理などのコース運営と就農支援が一体的に実施できたか。 ○ 卒業生との意見交換会を実施し、就農に向けた心構えなどアドバイスをもらう支援ができたか。 ○ 現役農業経営者にアフターフォローを依頼する等、卒業生のフォローアップが充実できたか。		
学校運営	学生募集のPRを更に充実する	○ 就農に向けた相談会、コース説明会等の通年実施や農業高校への働きかけ等によりコースの内容等をアピールし、効果的な募集活動ができたか。 ○ 独自の募集チラシを作成して関係機関や団体に配布し、募集の周知ができたか。 ○ 市町村やJA等の関係機関、団体と連携を密にし、人材の掘り起こしができたか。 ○ 専用ブログやメディア等様々なPR媒体の活用等により、授業内容や卒業生の営農状況を紹介するなど、効果的なPRができたか。		

(3) 農業経営コース

評価項目	評価の観点	達成状況		R7評価
		成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
学習指導	授業実習内容の充実を図る	○ プロジェクトは、学生の能力に応じて経営管理力を習得させるよう、全学生が経済性の検討を充実するとともに、労働時間の考察や検証が取り入れられたか。 ○ 1年生はプロジェクト活動について、巡回だけではなく2年生との実習時や寮生活での交流により理解を深めることができたか。 ○ ゼミナールによる先進農家視察が実施できたか。 ○ マーケティング手法の習得を目的として、のうだい屋(5回)と農大祭が実施できたか。また、農大祭では、1、2年生間で販売・運営方法の伝承や販売物の確保ができたか。 ○ 現地体験実習について現地機関と連携をし適切な実施ができたか。		
進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	○ 就農への意識づけに向け、農業経営演習を充実できたか。 ○ 就農支援プログラム等に基づく様々な就農形態に応じた個別、計画的支援ができたか。 ○ 卒業生を就農地の現地機関に確実につなげることができたか。 ○ 農業法人合同説明会等を開催するとともに、インターンシップの実施により就農意欲の向上を図れたか(就農率40%以上)。		
学校運営	学生募集のPRを更に充実する	○ サンデー見学会、オープンキャンパスの充実と体験学習を見直し、農業大学校への関心を高めることができたか。(再掲)。 ○ 高校訪問や進路指導担当教諭会議等を通じて農大のPRや情報収集ができたか。また農業高校以外の進路担当教諭にも十分周知できたか(再掲)。志願倍率1.5倍		